

広島県の水質総量削減に係る取組について

1 現状

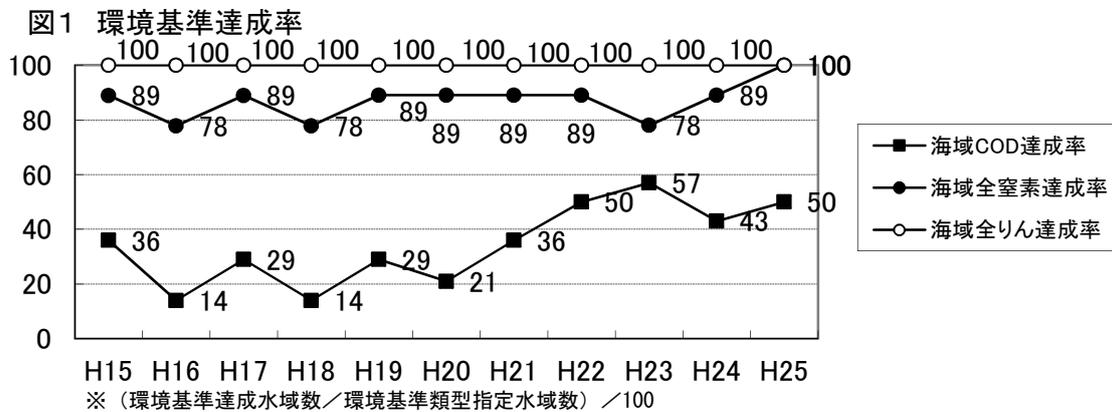
(1) 環境基準

ア 水質 (COD, 全窒素, 全リン) 【別紙 1】

- ・ COD 濃度は、概ね横ばいの状態が続いている。
- ・ 全窒素及び全リン濃度は、長期的にゆるやかな低下傾向にある。
- ・ 水域別にみると、全ての項目について、広島湾が高い傾向にある。

イ 環境基準達成状況 (COD, 全窒素, 全リン) 【図 1】

- ・ COD の環境基準達成率については、改善傾向が見られる。
- ・ 全窒素及び全リンの環境基準達成率については、ほぼ全水域で環境基準を達成している。



(2) 発生汚濁負荷量 (COD, 全窒素, 全リン) 【別紙 2】

- ・ COD については、やや減少傾向にある。
- ・ 窒素, リンについては、概ね横ばいの状態となっている。
- ・ 水域別にみると、広島湾及び備後灘が高くなっている。
- ・ 平成 24 年度末時点で、COD, 全窒素, 全リンの全てについて、第 7 次総量削減計画 (平成 24 年 2 月 20 日策定 (告示)) の削減目標 (H26 年度目標) を満足しているが、依然として、赤潮の発生が見られる。【表 1】

表 1 発生汚濁負荷量の状況

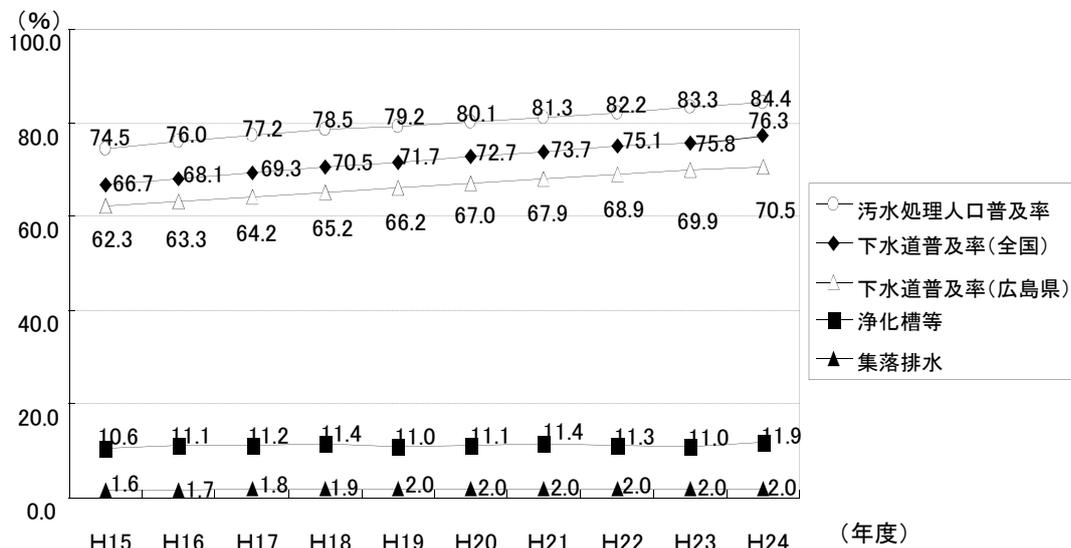
単位: t / 日

区分	年度	生活排水	産業排水	その他	合計
COD	H24 末	19	23	6	48
	H26 (目標値)	17	30	6	53
窒素	H24 末	13	12	17	42
	H26 (目標値)	12	13	17	42
リン	H24 末	1.0	0.6	0.7	2.3
	H26 (目標値)	1.0	0.6	0.8	2.4

2 対策

- ・広島県污水適正処理構想（平成8年3月策定）に基づく生活排水処理施設の整備等（污水処理人口普及率 84.4%（H25目標 83.9%））【図2】
- ・特定事業場等への立入検査及び行政指導等

図2 污水処理人口普及率



H26.4 県污水適正処理構想

3 その他の動き

- ・平成26年2月

漁協を中心に、カキ漁獲量の減少やノリの色落ち等の指摘があり、2月定例会において、「瀬戸内海再生法」の早期制定を求める意見書が採択された。

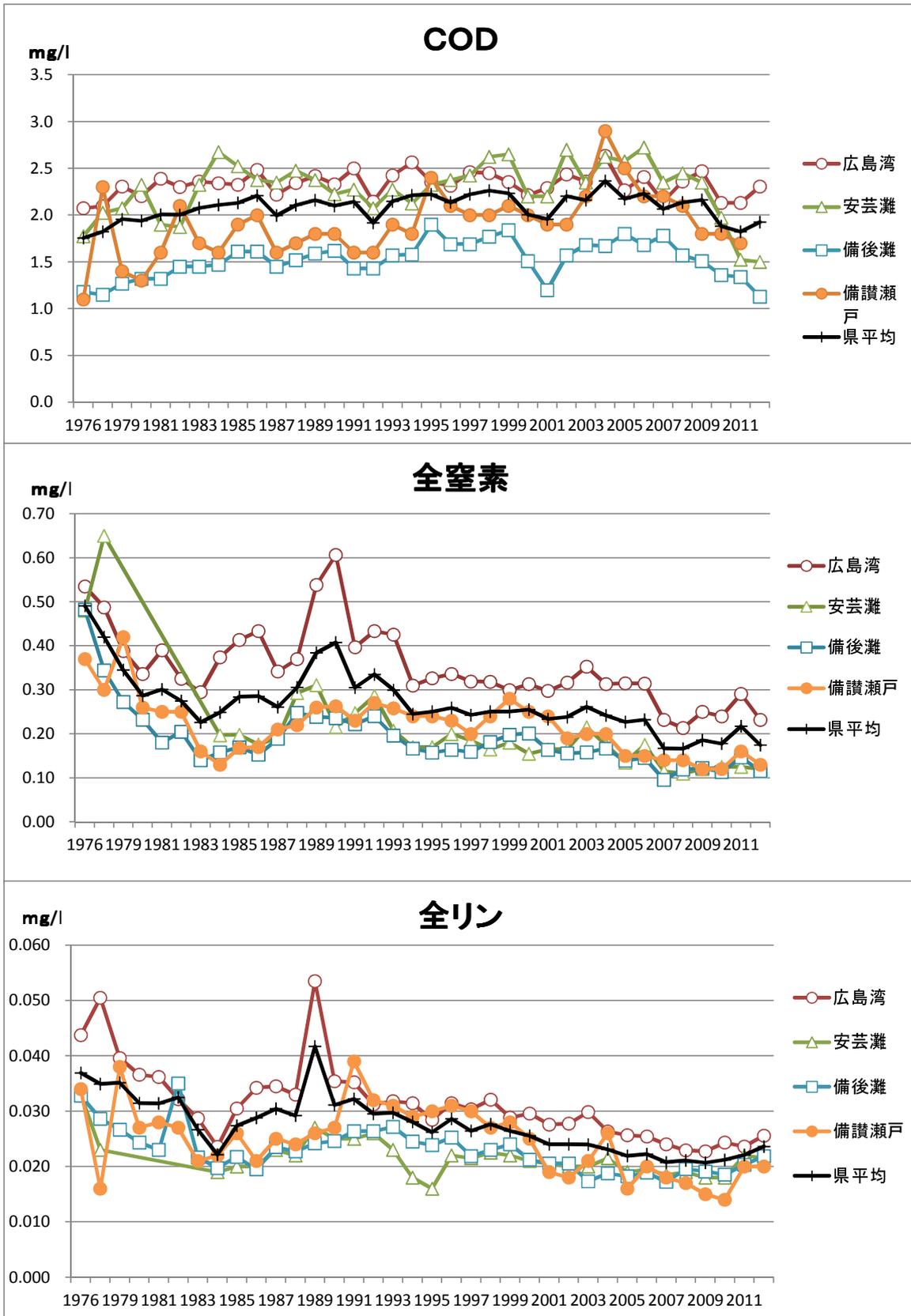
- ・平成26年10月

福山地先海域でノリの色落ちやチリメンジャコの不漁が続いていることに対し、福山市と福山地区水産振興対策協議会（福山市の全漁協が加盟）が環境省へ要望書を提出した。

- ・平成26年11月

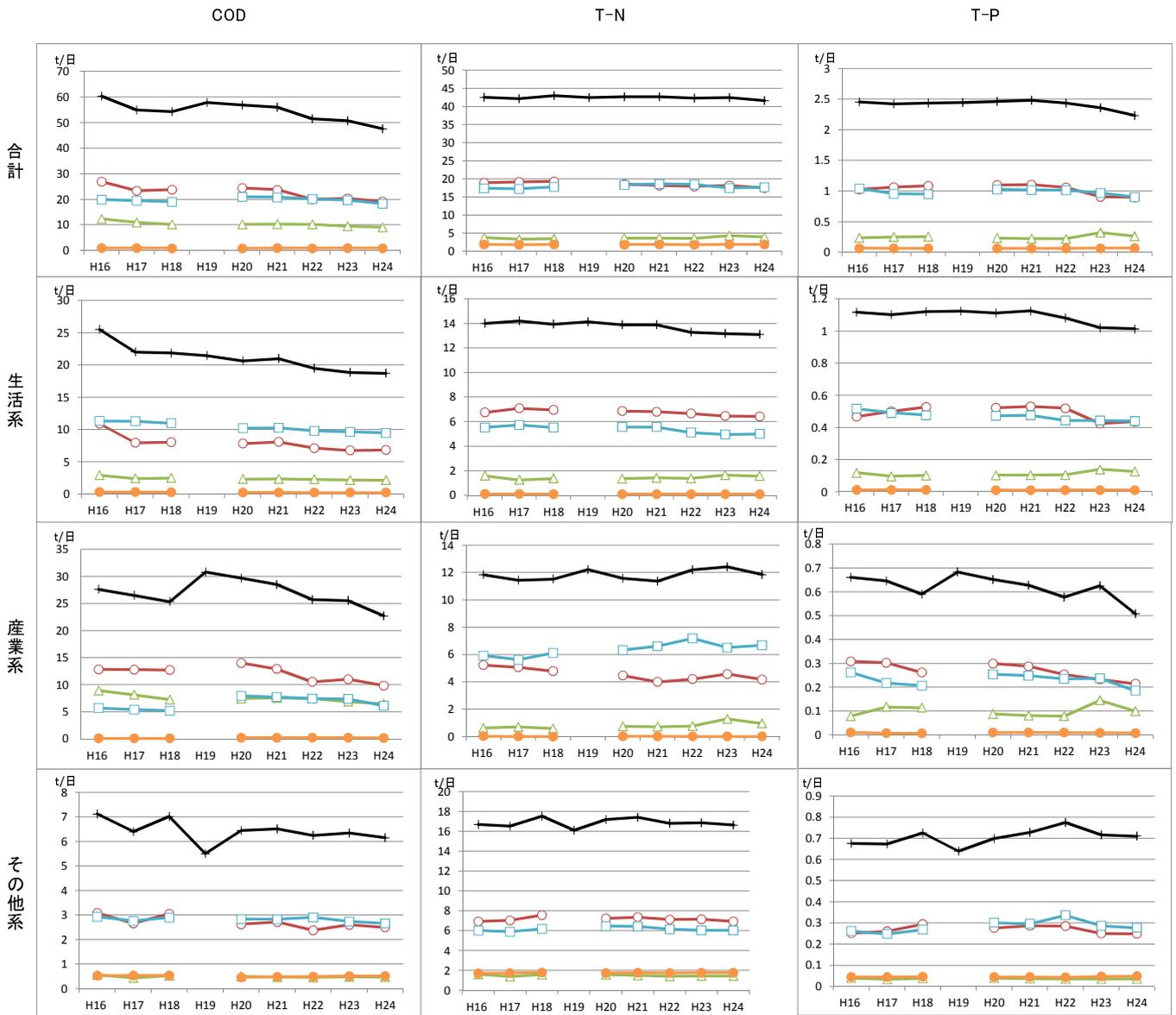
福山地先海域の栄養塩の適正管理のため、福山市が、浄化センターやし尿処施設等からの栄養塩類を増やす運転を検討しており、県（流域下水道部局）へも協力要請があった。

広島県の瀬戸内海水域別の水質推移 (COD, 全窒素, 全リン)



広島県の瀬戸内海水域別の発生汚濁負荷量推移(COD, 全窒素, 全リン)

凡例：— 瀬戸内海計 ○ 広島湾 ▲ 安芸灘 □ 備後灘 ● 備讃瀬戸



(参考)

水域別の水質及び汚濁発生負荷量の推移

凡例：○ COD ▲ 全窒素 ×10倍 □ 全リン ×100倍
● 負荷量(COD) ▲ 負荷量(全窒素) ● 負荷量(全リン)

